

令和8年3月25日

世田谷区立千歳中学校 保護者の皆さま

みのりの学び舎
世田谷区立千歳中学校
校長 和田 祐一郎

令和7年度 世田谷区立千歳中学校 自己評価 報告書

令和7年12月から、教職員を対象に今年度の教育活動に対する自己評価を実施してきました。その集計結果については別紙の通りです。また、令和8年1月から評価結果について、職員会議等で検討した内容についてまとめましたので、お知らせします。

1 令和7年度の重点項目への取組について

- (1) 生徒の主体的な学びを支え、学びの自立を図る。
- (2) これからの社会に必要な社会性を身につけ、さらに伸ばしていく。
- (3) 自らの学習や生活や進路などの目標に向け、計画・修正・改善しながら行動できるようにする。
- (4) 地域的な特色を生かした創造的な教育で対応する学校

2 重点項目に関する取組状況について

- (1) 生徒の主体的な学びを支え、学びの自立を図る。

① 日々の授業改善に努め、個に応じた指導を充実させる。

知識や情報や言語を活用する能力の育成するために、今後も継続して各授業のねらいを明確にすると共に、ICT支援員と協力して、さらにわかりやすい授業を実践していく。また、対話的な学びの中で発言することが苦手な生徒がいる場合は、ロイロノートで意見を発表する方法などを試みた。これにより発言がでなくても自分の意見をアウトプットできるようになった。生徒自身による学び方の工夫を促すことで主体的に学習に取り組む態度を育てていく。昨年度から自動採点システムが導入され採点時間の短縮はできているが、新しいアプリが導入されるたび定期的な研修会をする必要があるため、業務がより増大しているように感じる。

② 適正な評価（指導と評価の一体化）

継続して校内で学習評価に関する研修を実施できた。校内での研修会の中でも生徒の努力を認める評価を今後も続けていくコンセンサスが取れた。保護者への説明会を実施できたことから、学習指導要領の理解に伴うより適切な学習評価になるよう、今後も研修を続けていく。

③ ICT機器の積極的な活用した教科指導方法の研鑽・実践に努める。

世田谷区教育要領に則り、教材の工夫やICT活用を通して「楽しい、よくわかる、生徒が主体的に学び合う」活動を重視した授業を展開するため、ICT活用の研修会を適宜開催し、主体的・対話的で深い学びを進めている授業につなげていく。生徒が自らの考えを伝えられる場面を授業の中で多く設定していく。

指導の工夫で評価の高いもの

言語を活用する能力を伸長するために、主体的に考え、話し合い、表現する言語活動を取り入れた学習を計画的に行っている。

100%

体験的・問題解決的な学習が進められている

97%

- (2) これからの社会に必要な社会性を身につけ、さらに伸ばしていく。

①生徒が感動体験を体感できる、生徒による生徒のための学校行事を実現させる。

学校行事は、縦や横のつながりを意識して取り組ませている。どのように実施すればクラスや学年、全校生徒が千歳中の伝統を引き継ぎながら充実できる開催方法を考えさせる。生徒自らが考え、行動する場面を設定することで生徒は自己有用感が高まり、達成感や充実感を感じている。学校行事では、生徒の成長が見られるため練習時間を可能な範囲で最大限確保し、生徒の力を伸ばしていく。

②生徒の自律的な活動を支援する。生徒会が自ら企画して地域行事への参加や地域ボランティア活動等に取り組めるよう支援体制を整える。生徒自らの行動規範となるべく生徒が主体となって「生活のきまり（校則）」を見直す。（多様性の尊重）

生徒会の挨拶ボランティアの推進、ありがたい花束、縦割スポーツ交流など「とどけ」をテーマに新生徒会が学年を超えた千歳中のつながりを意識した企画を進めた。また生徒手帳の中に記載のある、現行で必要な項目、必要ない項目のピックアップ等を行っている。生徒会や専門委員長が生徒のために考えた自分の公約を実行するために各組織で取組が進んでいる。

③櫛の3つの基本ルール（大切にする、素直・正直、気づく）の具現化に関連させ、生徒一人一人が地域社会の一員として必要な、社会性や規範意識を身に付けられるよう実践を重ねる。

常に【櫛 大切にする 素直・正直 気づく】を基本ルールの共通言語として用いて、この内容に基づく目標を立て、スローガンを掲げ、計画的に取り組んだ。この共通言語は様々な場面で指導に生かされ、生徒の理解は浸透している。また、生徒もこの基本ルールを大切にしている。

場面、場面で生徒がこの言葉の具現化のためにどのような活動をすべきかについて、十分理解を図ることができている。生徒総会や学級活動において、この基本ルールをもとに改善点等を出し合い、在校生が作り上げたものにしていくと、さらに基本ルールを大切にしている生徒が増えると考えている。令和8年度も引き続き、基本ルールを基に指導を継続していく。

年度当初、学期始め、座席替え等のタイミングで、構成的グループエンカウンターを展開し、よりよい集団づくりに努めた。今年度は今まで行ってきた構成的グループエンカウンターのデータを整理し、今後の指導にすぐ生かせるようにした。また、三者面談・ハートフルウィーク等を実施し、コミュニケーションを図る場面設定をしてきた。月に1回は、生活に関するアンケートを行い、生徒の現状把握に努めた。その結果、仲間との関わり方が上達し、自分を見つめる力が高まる等、人間関係形成能力を高めていくことへの意識が高まったと考える。引き続き継続指導を行う。

④いじめを受けた等の訴えや、不登校生徒に親切・丁寧・迅速に対応する。

「いじめ」の未然防止に努めるために、特別な教科 道徳をはじめとしてLGBTQや障害等について学ぶ機会を設定した。また、道徳や学活等を利用して、いじめ防止の意識を高める取組を意図的・計画的に取り上げた。生徒のアンケートからも「いじめはいけない」という意識は高まっている。反面、「どんなことがいじめに当たるのか」という意識や相手への配慮が足りず、いじめ問題として学校が対応するケースもあった。今後は、いじめの定義やケースを想定した学習をさらに展開し、生徒一人一人の行動の在り方を考える実践が必要と考える。

⑤インクルーシブ教育を推進し、特別な支援を要する生徒に関する情報を全職員で共有し、可能な限りの合理的配慮を行う。

学校生活調査とともにWeb Q-U調査の研修会を2回実施し、この調査を分析することによって、クラスの状況や諸問題を抱える生徒（不満足群）への個別の支援を行った。「先生たちは、生徒が相談しやすい」の質問で肯定的な回答をした生徒は73.9%となった。（+2.4%）個別に丁寧に対応しているが、より相談しやすくするために必要なことを考えること。また、今後も個別の対応を十分に行うよう心がけ、集団の質を高める取組を継続していく。すべての生徒が安心・安全に過ごせるように配慮する。

不登校生徒にも、タブレットや電話でこまめに連絡をしていく。今後も教育的予防に重点を置

き、学校組織全体で不登校傾向を示す生徒への早期対応と相談体制の充実を図る。

道徳・特別活動・学校行事で評価の高いもの

生徒は主体的に行事に参加している	100%
学校行事の工夫・改善を進められている。	100%
人間関係形成能力の伸張を図るために、構成的エンカウンターを活用している。	100%

(3) 自らの学習や生活や進路などの目標に向け、計画・修正・改善しながら行動できるようにする。

①千歳ゼミやレジリエンス教育の推進

総合的な学習の時間は全教員で指導にあたり、これまでに培ってきた方法や情報を生かし、課題発見・解決能力の伸長を図る指導方法の工夫・改善及び内容の充実に努めている。学校全体で、探究的な学習の実践（千歳ゼミ）に取り組み、生徒の興味・関心に応じて調べたり、意見交換をしたり、まとめたり、発表したりしながら、自らの学習を調整しながら学ばせている。また、生徒にはレジリエンスの指導や充実するための手だてを構築することで、気分が落ち込んだときの対応方法や気分の立て直し方を学ばせ、気持ちを修正する方法を学び、よりよく自己実現を図ろうとする態度を伸長している。

②キャリア教育の推進

3年間を見通した進路指導を計画的に行う。生徒自身の自己理解を深めレジリエンス教育を推進している。自らの将来に目標をもたせ、1年生では職場調べや上級学校調べ、2年生では職場体験学習等の体験学習や高校の先生の授業を体験するなど、3年生では自らの進路を切り開く進学指導を通して、自己の生き方への自覚を深め、将来への展望への道のりを考えさせている。

③教科「日本語」

教科「日本語」「レジリエンス」などに関連付けて実施している。表現では、構成的グループエンカウンターを実施。また、哲学では、人との関わりや生きることについて考えることを実施している。その他に、落語高座やマナー教室、LGBTQの講演などを通し、考え、伝えることを通して、「深く考える」学習を進めている。

(4) 地域的な特色を生かした創造的な教育で対応する学校

家庭や地域とも連携をして「人格の完成を目指して」の取り組みが進められている。では、教員の肯定的回答が85.8%となった。（+8.8%）多くのご家庭にはご協力を得ている。今後も「生徒の人格の完成を目指す」よう取り組むが、他者を尊重する姿勢や地域でのよい振る舞いなどについて指導する必要がある。道徳を通して指導を継続するとともに、今後もご家庭の理解が得られるよう丁寧に指導をしていく。

また、各行事や英語検定には地域の方の大きなサポートを受け実施している。各行事の受付業務では丁寧な対応で来賓や保護者への対応を行っていただいた。英語検定は第1回が148名、第2回は113名、第3回は93名が検定に取り組んだ。今年度も学校支援地域本部が一貫して運営してくれた。もちろんPTAの保護者の皆様の試験監督などの援助を得て英語検定が開催されることに感謝している。集金に関しては昨年度からオンラインでの集金を始めた。

他には、

- ・居場所づくりとして、各児童館の中高生タイムの活用
- ・不登校の生徒や親が相談できるスペース（祖師谷児童館にて主任児童委員や青少年委員が開催している）「ゆるり庵」や「ゆったりカフェ」の告知を行い、不登校支援をしていただいている。
- ・避難所運営訓練を東京テラスの方が開催。このとき中学生が参加させていただき、地域防災

について学ぶ機会をいただいている。この取組は祖師谷まちづくりセンターの協力も得ている。

今後の課題は、地域の方を講師とした講演会などを実施することである。

キャリア教育・進路指導で評価の高いもの

生徒や保護者に進路に関する情報を十分に提供し、進路にかかわる相談に丁寧に対応している。

100%

- *校長のリーダーシップは発揮されているかでは、教員肯定的回答が85.8%となった。
(+8.8%) 今後も指導の重点を教員、保護者に伝えていく。また、働き方改革を進め、「働きやすい職場」を目指す。
 - *コスト意識をもち、予算等が有効に活用されているでは、教員肯定的回答が92.4%となった。
(+6.4%) 校務PCを活用し、ペーパーレスを推進することができた。
 - *「学び舎」の特色ある教育活動が実施されているでは、教員肯定的回答が89.2%となった。
(-4.8%) 小学6年生を中学校に招き、中学教員の授業を体験してもらった。塚戸小学校の6年生が卒業式で披露する3年の全体合唱を鑑賞した以外の中学生との交流の機会がもてていない。また、学び舎の教員間の研究を今後協力して推進していく。
 - *部活動を全職員で組織的に実施されているでは、教員肯定的回答が78.6%となった。
(-1.4%) 練習時間の設定を守り、実施することでルールを守った活動をしていく。今年度から活動時間を1年間通して90分間の活動をすることとした。生徒の放課後の活動にゆとりをもたせ、どの顧問でも同じような活動にできるよう調整した。教員には、「生徒の興味の高い活動なので負担を感じることもあると思うが、できる範囲で生徒の活動を支えてもらいたい」と伝えている。
- 保護者の皆様、今後とも学校運営にご理解、ご協力をお願いします。